

群 教 セ	G15-01
	令元. 271集
	高-キャリア

令和元年度長期社会体験研修報告書

研修先：有限会社三輪農園

長期社会体験研修員 高野 敬介

I 研修内容

1 研修先の概要

有限会社三輪農園は、前橋市の亀里町に位置し、ミツバ、水稻、大麦、小麦の栽培を中心に経営している農業法人である。ミツバは、水耕施設栽培により年間を通して生産しており、水稻と麦栽培は米麦二毛作を行っている。社訓として、「チーム（ペア）で仕事を行う」を掲げており、日々の業務をチームで行うことで、業務の効率化を図るとともに、社員同士のコミュニケーションの活性化を大切にしている。そして、地域産業を担っているという自覚をもち、農業生産者という立場で食糧生産に貢献している。また、地元の小学校や高等学校と行う農業体験活動、地域景観の保全、雇用の創出など、多面的な社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。三輪農園は、群馬県の農業の発展に対して大きな役割を担っている企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 農作物の生産管理及び農業経営に関する研修【4月1日～3月25日】（研修場所：三輪農園等）

ミツバ栽培では、水耕栽培に関わる施設管理や播種から収穫までの生産管理に携わった。また、水稻、麦栽培では、トラクターやコンバインなどの農耕車を使用し、全ての生産管理に携わった。この業務に関わる技術を高めるために、7月に群馬県立農林大学校で大型特殊自動車の免許教習を受け、免許を取得した。生産管理業務以外にも、社長に同行して出荷業務に当たることで、農作物が消費者に届くまで見届けることができ、農業経営の一端を学んだ。

(2) 群馬県農業法人協会での研修【4, 7, 9, 12, 3月】（研修場所：群馬県公社総合ビル等）

群馬県内の農業生産者の方々との交流を通して、現代農業が抱える課題や今後の展望などの情報交換を行い、群馬県の農業の発展について考える機会をもつことができた。

企業視察会として、AIロボットを導入して製品を製造している株式会社稲葉製作所、GGAPを認証して菌床キノコ栽培を実践している有限会社妙義ナバファームを訪問することで、業務の効率化やSDGsと農業の関わりについて学んだ。また、群馬働き方改革推進支援センター専門家・社会保険労務士の中嶋栄氏による「働き方改革について」やビジネスコンサルティング・ジャパン株式会社代表取締役社長の伊藤敏克氏による「企業の成長と衰退の法則が分かる」の講演を聞き、農業という職業での働き方と経営方法について深く考える機会となった。

(3) その他の農業法人での研修【9, 1, 2月】（研修場所：各農業法人）

9月に有限会社妙義ナバファームにおいて、シイタケ、キクラゲ、マイタケの菌床施設栽培、1月に株式会社長沼農園で長ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ゴボウの露地栽培、2月には有限会社あずま産直ねっとでレタス、カブ、イチゴ等の施設栽培について学ぶことができた。これらの体験を通して、農作物の生産管理や農業経営の手法を学ぶとともに、そこで働く多くの就農者と関わることで、農業という産業の中での働き方や生き方を知ることができた。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業研修で学んだことを基に、「農業という職業から働くことを考える～就業体験前に準備したいこと～」をテーマに、就業体験を行う高等学校1学年向けにリーフレットを作成した。農業とい

う職業から働くことの意義を考えさせ、よりよい将来の実現に向けて就業体験の重要性を理解するとともに、就業体験の見通しをもたせる事前学習として活用できる内容とした。また、研修先の社長や社員の方々のメッセージとして、高校在学時に身に付けておくことよいこと、就業体験で高校生に期待することなどを掲載し、就業体験の目標設定につなげられるものとした。

(2) 実践の概要（県立利根実業高等学校）

授業実践

題材名 「主体的な就業体験に向けて今後の学校生活の見通しを立てよう」（特別活動）

対 象 農業系第1学年 72名

本実践では、二年次に実施する就業体験の事前指導に当たる学習活動として行った。農業という職業を理解する中で、社会貢献という側面から社会的・職業的自立や働くことの意義を意識させた。また、実社会で活躍する職業人からのメッセージを基に、現在の学習が将来の社会・職業生活の基盤になることに気付かせ、進路に対する自己課題を見だし、今後の学校生活の見通しをもたせる活動を行った。

II 研修成果

1 農業生産に関わる研修について

三輪農園でのミツバ、大麦・小麦、水稻栽培の生産管理を通して、播種から収穫までの間は絶えず生育状況を観察することが最も重要であり、栽培の基礎・基本に当たることを再認識した。そこで、学校教育の場において、農作物の栽培学習ではポートフォリオを活用し、生育観察の重要性を理解させる活動を積極的に取り入れていきたい。

2 農業法人と人材育成について

三輪農園やその他農業法人で働く方々と共に仕事を行う中で、社員や就業体験の学生は、独立就農を目指している方が多く、農業法人がその人材育成や農業技術を指導する重要な役割をもつ機関であることを理解した。農業に関わる産業人材の育成が農業高校に求められている中で、その実現には農業法人など地域社会との連携が必要であり、本研修で得た知識を農業教育に生かしたい。

3 キャリア教育実践について

授業実践前にアンケートを行い、生徒に自己課題を把握させて授業の目標を設定したことにより、学習活動に対して主体的に取り組む様子が見られた。また、自己課題から就業体験に向けて今後何を学ぶべきかを考え、就業体験の目標を設定することで、今後の学校生活の見通しをもたせる活動となった。実践を通して、農業という職業の理解、社会貢献という側面から社会的・職業的自立や働くことの意義等について、生徒一人一人の意識を高めることができた。

III まとめ

農業科教員として農業法人で研修できたことで、今後の教科指導のみならず、進路指導など様々な場面で生かすことができる経験が得られた。企業で実際に働くことにより、今後、生徒が身に付けるべき力についてキャリア教育の視点から理解することができた。

農業は国民に食糧を供給する非常に重要な産業であるが、今の農業が抱えている多くの問題や課題について身をもって学ぶことができた。その一方で、農業という職業がもつ魅力や喜び、働く人の生き方についても目で見て、肌で感じることができた。

この研修で得ることができた多くの人とのつながりを大切にし、今後の教育活動に自身の経験を還元するとともに、実社会の声を生徒に伝えていきたい。

（担当指導主事 相京 貴志）